

1 研究主題

主体的に学習に取り組む児童の育成
～協働的な学びを支援するためのICTの活用の工夫～

2 研究の具体

急速な情報化が進展すると予想される社会をたくましく生き抜くために、「何をどのように学ぶか」を考え、自分に必要な情報や情報技術を主体的に取捨選択し、問題を発見・解決したり、自分の考えをつくったりすることができる「情報活用能力」の育成が求められている。各教科等の学習活動においてICTを効果的に活用する場を設定することで、情報活用能力を体系的に育成し、主体的に学習に取り組む態度を身に付けさせたい。

(1) 学習のねらいを達成するためのICT活用の工夫(アナログとデジタルのよさを生かして)

<p>5年体育科</p> <p>試技の動画との比較</p> <ul style="list-style-type: none"> ・手本の動き ・友だちの動き ・前時の自分の動き 	<p>1年道徳科</p> <p>動画での課題提示</p> <p>→動物が動いている様子から、生きている実感をもつ。</p>
 <p>客観視</p>	 <p>課題把握</p>

3～6年総合的な学習の時間

児童の意識の流れに沿った、ICT支援員による情報モラルの指導の場の設定

→必要感がもてる学習の場、ICT支援員との連携
情報活用能力体系表をもとにした指導




(2) ICT活用の日常化の工夫

<p>健康を自己管理する力の育成のための管理WEBアプリ(健康観察)</p> 	<p>高学年のタブレットの持ち帰り(連絡帳)</p> 	<p>タイピング技能向上をめざして</p> <ul style="list-style-type: none"> ・朝のICTの時間の設定 ・タイピング検定  <p>《キーボード早見表》</p>
--	---	--

3 研究の検証及び改善の手立て

[児童] 学習の中でICTを使うのは勉強の役に立っていますか。 92.8%→100%

[児童] ICTは自分の考えを伝えたり友だちの考えを聞いたりする時、役に立つと思いますか。 91.4%→94.4%

[教員] ICTを活用し、児童が主体的に学習に取り組むことができるような授業や活動の工夫ができていますか。 81.8%→90.9%

【成果】

- ・児童のICT活用スキルの向上が見られる。上学年から教えてもらうなど、異学年での協働的な学びの場がスキルの向上につながっていると思われる。児童アンケートからも、経験を通してICTのよさを実感しながら、学習に取り組む児童が増えてきたと考えられる。
- ・教師も互いの実践を交流したり、総合的な学習の時間の活動を協力して行ったりすることで、ICTを活用した指導の幅が広がった。
- ・ICT支援員が、直接児童に関わることができるようなカリキュラムを組むことで、専門的な立場からの助言や実感を伴った情報モラルの指導ができた。

【課題】

- ・ICTを使う時のきまりを身に付けることで、児童が自ら考え、ICTを活用する場面を増やしていきたい。
- ・体験を通して技能を体得したり、理解をしたりすることがある。今後は、自分に合う方法を自己選択する力を身に付ける指導を進めていきたい。

情報活用能力体系表の活用

領域	観点	観点	第1学年	第2学年
(A) 基本操作	(A1) 情報機器の活用	学習時タブレットの使用、操作。		
	(A2) フォト			
	(A3) 検索			
	(A4) プレゼンテーション	自分で撮影した画像を1枚ずつ、簡単な説明や感想を添えることができる。		
	(A5) 編集	カメラを使って撮影することができる。		
	(A6) 複製	QRコードを読み取り、必要な情報を入手することができる。		
	(A7) 印刷・保存			
	(A8) タイピング			